

「心」が響きあう南郷っ子たちに

校長 鈴木利雄

令和4年度より、歴史と伝統ある南郷小学校の校長を務めさせていただきます鈴木 利雄 と申します。児童と対面し、互いに笑顔の交換から出発いたしました。そして、今改めて、南郷っ子の生きる力を、全力で育んでいくことを決意いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

始業式のお話です。2年生～6年生の児童に、私が校庭に咲き誇る満開の桜の木に、「南郷小の子ども達は、どんな子ども達ですか」と話しかけた時の様子をこんなふうに伝えました。

私がそう話しかけると、桜さんが「南郷っ子の2年生は、笑顔のとっても素敵な子たちです」と応えてくれました。するとすぐそばにいた滑り台さんも「3年生、4年生、5年生、最上級生の6年生もみんな笑顔がとっても素敵な子ですよ」と教えてくれました。（疑いの眼差しで見つめ返す子ども達に、私は伝えました。）

「きれいな桜の花を見た時『わあ！きれいだなあ！』と心が動いた気がしませんか？」（何人かの子が『ある！』とうなずいてくれました）

「初めて滑り台のてっぺんに立った時、なんだか心がドキドキわくわくしたのを覚えていませんか？」（思い出したような表情がありました。そして更に続けて）

「皆さんの心が動いたのは、桜の木や滑り台にも「心」があって、お互いの心が、通じ合ったからだと思いませんか。」（子ども達は聴き入ってくれました。）

私が子ども達に気付いてほしかったことは、自分の「心」をしっかりとほたらかせることで、今以上に、相手の「心」を感じ取れるようになるかもしれないということでした。インターネットの時代ですから、スマートフォンやタブレットを持っていれば、電話線が見えなくても通じ合うことができるということを、今の子ども達は、むしろ私たちよりも知っています。ですがその前に、自分の「心」が相手の「心」とつながりあえるということに、今一度目を向けてほしかったのです。

最上級生の6年生に、私は最後にこう語りました。まずは身近な家族の心、クラスの友達、下級生、先生方の心を感じ取れる「心」に。そして、卒業の頃には、桜の木や、滑り台、教室の机…。お世話になった学校に、感謝の心で「ありがとう」と語りかけられるくらい、「心」が成長できるようにと。

「心」のお話は、学校経営全体から見れば柱の一つですが、1年間を通して「心」と「心」が響き合い、温かなハーモニーに包まれた学校を今、思い描いています。